中小企業の 景気動向調査

CHIBA SHINKIN BANK

千葉信用金庫

No.69(令和3年1月~3月)

NEWS report

- ■当期の業況は、卸売業・サービス業を除いて改善したが、依然厳しい業況が続いている 新型コロナウイルスの影響から悪化した令和2年4月~6月期の業況から比較すると、徐々にではある が今期はゆるやかな回復が見られました。
- ■来期の業況は、製造業・卸売業・サービス業が改善、総合では小幅な悪化を予測

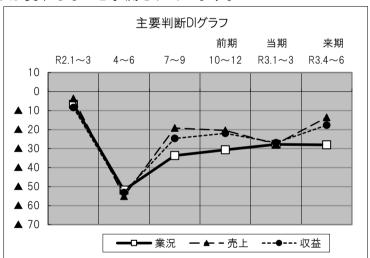
新型コロナウイルスの、収束が見通せない中ではあるが、製造・卸売・サービス業では改善を予測しています。

【全業種】

全業種総合の当期の業況判断DIは▲27.8と、前期から2.8ポイント小幅な改善となりました。しかし、前年同期のDIと比較すると21.1ポイントの悪化となっており、依然として厳しい状況が続いています。

来期は、販売価格の下落は弱まり、資金繰りは厳しさが増すものと予想されています。売上高・収益ともに減少傾向は弱まり、業況判断DIは当期と比べてほぼ変わらないと予測されています。

DI項目	前年同期	前期	当期	来期 (予測)	
	R2.1 ∼R2.3	R2.10 ~R2.12	R3.1 ∼R3.3	R3.4 ∼R3.6	
業況	▲ 6.7	▲ 30.6	▲ 27.8	1 28.0	
売上高	▲ 3.7	▲ 20.5	▲ 27.6	▲ 13.6	
収益	▲ 8.4	1 22.0	1 26.9	1 7.7	
販売価格	0.4	▲ 3.0	4 .9	▲ 1.7	
仕入価格	17.1	8.2	13.8	11.3	
在庫	▲ 2.8	▲ 5.4	▲ 2.8	▲ 4.7	
資金繰り	▲ 6.1	▲ 8.4	▲ 9.4	▲ 11.7	



【調査概要】

本調査は、当金庫お取引先のご協力を得て調査したものです。当金庫営業地域の経済動向把握と共に、地域の中小企業の皆様に経営の参考にしていただくためにまとめたものです。

- ■調査対象時期 当期(令和3年1月~3月)、来期(今後3ヶ月:令和3年4月~6月の見通し)
- ■調査企業先数 当金庫お取引先492社 有効回答数470社

(内訳:製造業76社、卸売業45社、小売業108社、サービス業86社、建設業95社、不動産業60社)

■DIの説明

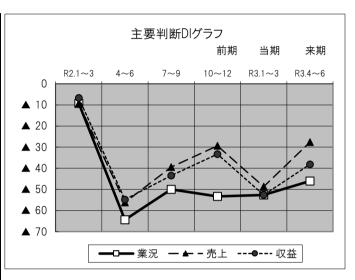
DIとは、「良い」「増加」「上昇」「過剰」「楽」と答えた企業割合から「悪い」「減少」「下降」「不足」「苦しい」と答えた企業割合を差し引いた数値のことです。「良い」には『やや良い』を含み、「悪い」には『やや悪い』を含みます。「増加」「減少」等、他の項目も同様です。

これら数値がプラスかマイナスか、そしてその大きさの程度によって、景気変化の方向を時系列的な推移の中

製造業の当期の業況判断DIは▲52.6と、前期から0.7ポイント改善しました。原材料価格の上昇が強まるなか、販売価格は下降が強まり、売上高・収益は、厳しさがましました。業況判断DIは前年同期から43.3ポイントの悪化となりました。

来期は、業況判断DIが当期と比べ6.5ポイント小幅に改善するものの、厳しい状況が続くと予測されています。

DI項目	前年同期 R2.1 ~R2.3	前期 R2.10 ~R2.12	当期 R3.1 ~R3.3	来期(予測) R3.4 ~R3.6
業況	▲ 9.3	▲ 53.3	▲ 52.6	▲ 46.1
売上高	▲ 9.3	1 29.3	4 8.7	▲ 27.6
受注残	▲ 6.7	▲ 33.3	▲ 39.5	▲ 30.3
収益	▲ 6.7	▲ 33.3	▲ 52.6	▲ 38.2
販売価格	▲ 1.3	▲ 5.3	▲ 9.2	▲ 6.6
原材料価格	24.0	9.3	25.0	19.7
原材料在庫	5.3	▲ 1.3	5.3	7.9
資金繰り	▲ 8.0	▲ 14.7	▲ 13.2	▲ 21.1
設備状況	▲ 17.3	▲ 12.0	▲ 17.1	▲ 15.8



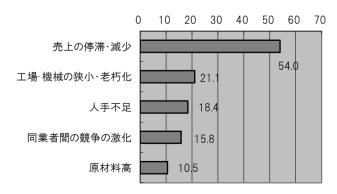
■調査員コメント

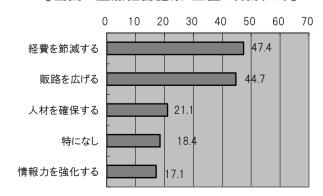
- ・新型コロナの影響により売上減少しており、経費削減など企業努力している。(農作物販売)
- ・新型コロナの影響により花火大会中止により売上激減、夏の花火大会まで売上増加見込が 立たない。(花火製造)
- ·飲食店へ原材料の納品を行っているが、新型コロナの影響により売上額減少。(そば粉)
- ・新型コロナの影響はほぼなく当面の間業況も安定して推移する見込み。(機械製造)
- ·売上の大部分を学校給食製造が占めているため、給食が止まらなければ安定した売上を確保できる。(学校給食)

■製造業における経営上の問題点と重点経営施策について

(複数回答)

【経営上の問題点:上位5項目(%)】



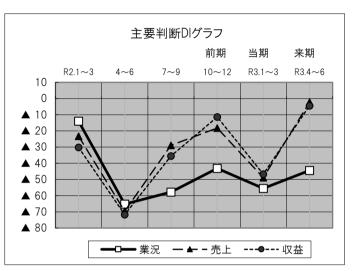


【 卸売業】~今期は悪化、来期は当期に比べ改善と予測~

卸売業の当期の業況判断DIは▲55.6で、前期から12.4ポイント悪化しました。販売価格の上昇が弱まり、売上高・収益ともに減少傾向が強まりました。資金繰りは厳しい状況が続いており、業況は前年同期からは41.6ポイントの悪化となりました。

来期は、売上高、収益共に下落傾向が大幅に弱まり、業況判断DIも11.2ポイント改善し、回復傾向が予測されています。

DI項目	前年同期 R2.1 ~R2.3	前期 R2.10 ~R2.12	当期 R3.1 ~R3.3	来期(予測) R3.4 ~R3.6
業況	1 4.0	▲ 43.2	▲ 55.6	4 4.4
売上高	▲ 23.3	▲ 18.2	4 8.9	▲ 2.2
収益	▲ 30.2	▲ 11.4	4 46.7	▲ 4.4
販売価格	▲ 2.3	6.8	0.0	6.7
仕入価格	20.9	15.9	15.6	13.3
在庫	▲ 4.7	▲ 2.3	2.2	▲ 2.2
資金繰り	7.0	▲ 6.8	▲ 11.1	▲ 6.7
設備状況	▲ 11.6	▲ 6.8	▲ 8.9	▲ 6.7



■調査員コメント

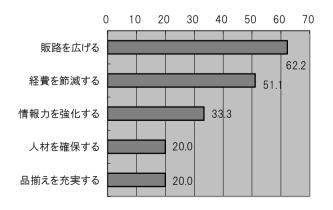
- ·緊急事態宣言発令により取引先(市場仲卸)の業況と比例して売上減少となっている。(生鮮水産・加工物)
- ・高級海産物を使用する国内のレストラン、ホテルが営業縮小しており販売量減少、コロナ収束 まで業況回復は厳しい。(水産物卸売業)
- ・飲食事業者の時短営業等による受注減少が、発生しており減収が生じている。今後は、医療機関への推進に注力していく方針である。(業務用食材)
- ・新型コロナの影響があったが、給付金の利用や、制度融資の利用により現在は安定している。 (段ボール箱)

■卸売業における経営上の問題点と重点経営施策について

(複数回答)

【経営上の問題点:上位5項目(%)】

0 10 20 30 40 50 60 70 売上の停滞・減少 同業者間の競争の激化 利幅の縮小 取引先の減少 仕入先からの値上げ要請

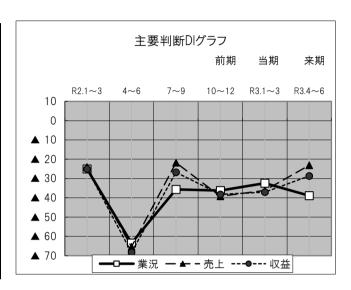


【小売業】~今期は小幅な改善、来期は当期に比べ悪化を予測~

小売業の当期の業況判断DIは▲32.4で、前期から3.9ポイント改善しました。売上高・収益ともに減少傾向が弱まりました。販売価格の下降も弱まり、業況判断DIは前年同期から7.4ポイントの悪化となりました。

来期は、売上高・収益ともに減少傾向が弱まりますが、業況判断DIは6.5ポイント悪化すると予測されています。

DI項目	前年同期 R2.1 ~R2.3	前期 R2.10 ~R2.12	当期 R3.1 ~R3.3	来期(予測) R3.4 ~R3.6
業況	▲ 25.0	▲ 36.3	▲ 32.4	▲ 38.9
売上高	4 24.0	▲ 39.2	▲ 36.1	▲ 23.1
収益	▲ 25.0	▲ 38.2	▲ 37.0	▲ 28.7
販売価格	2.9	▲ 6.9	4 .6	0.9
仕入価格	10.6	6.9	10.2	8.3
在庫	▲ 3.9	▲ 1.0	▲ 1.9	0.0
資金繰り	▲ 15.4	▲ 17.7	▲ 15.7	▲ 14.8
設備状況	▲ 12.5	▲ 19.6	▲ 13.9	▲ 13.9



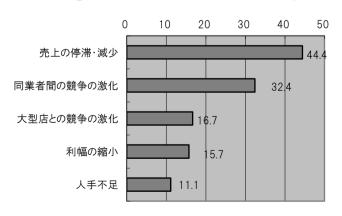
■調査員コメント

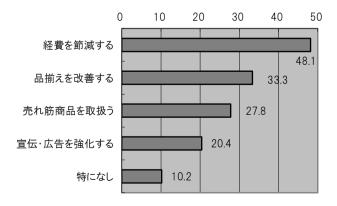
- ・新型コロナの影響で、葬儀が縮小され、仏具についても影響を受けている。(仏壇・仏具)
- ・婦人服を取り扱っているが、緊急事態宣言など外出が減り購買機会が減少している。(婦人服)
- ・生鮮食料品スーパーで比較的影響は少ない。週末は売上も伸びている。電子決済も増加している。 (食料品)
- ・新型コロナの影響で密を防ぐため、二輪車の販売が増えている。(二輪車販売・修理)
- ・学校関連・市役所等中心に学習教材、設備器具を販売。コロナ関連の備品、デジタル教材の受注が増加。(学校教材販売、設備販売)

■小売業における経営上の問題点と重点経営施策について

(複数回答)

【経営上の問題点:上位5項目(%)】



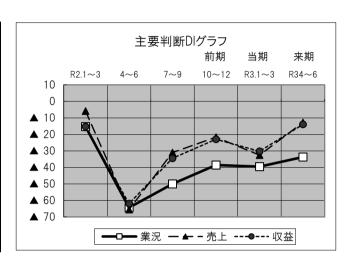


【サービス業】~今期は悪化、来期は当期に比べ改善を予測~

サービス業の当期の業況判断DIは▲39.5で、前期から0.2ポイント悪化しました。料金価格は下降が強まり、売上高・収益も減少傾向が強まりました。業況判断DIは前年同期から24.2ポイントの悪化となりました。資金繰りは厳しさが増しています。

来期は、売上高・収益ともに減少傾向は弱まり、業況判断DIが当期と比べて5.8ポイント改善すると予測されています。また設備状況はさらに不足状況が強まると予測されています。

DI項目	前年同期 R2.1 ~R2.3	前期 R2.10 ~R2.12	当期 R3.1 ~R3.3	来期(予測) R3.4 ~R3.6
業況	▲ 15.3	▲ 39.3	▲ 39.5	▲ 33.7
売上高	▲ 5.9	▲ 22.6	▲ 32.6	▲ 12.8
収益	▲ 15.3	▲ 23.8	▲ 30.2	1 4.0
料金価格	▲ 4.7	▲ 1.2	▲ 7.0	▲ 2.3
材料価格	17.7	2.4	5.8	9.3
資金繰り	▲ 10.6	▲ 11.9	▲ 16.3	▲ 15.1
設備状況	▲ 16.5	▲ 2.4	▲ 9.3	▲ 11.6



■調査員コメント

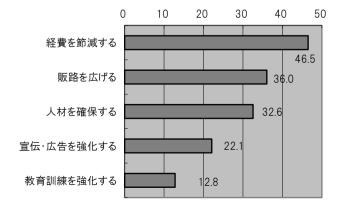
- ・新型コロナの影響により、会社員のリモートワークが増加しており、スーツ等のクリーニング需要が低下している。(クリーニング)
- ・新型コロナの影響で固定客利用頻度が少なくなっており、売上に影響が出ている。(理容業)
- ・新型コロナの影響を直接受けている業態であり、ITを駆使しているが、厳しい状況。宣言明けの 売上に期待している(旅館業)
- ・観光地の記念撮影が減少しており、新型コロナの終息・売上回復を期待している。(総合写真撮影)
- ・新型コロナの影響はほぼなくゴルフ場は利用され、春先に向けて売上増加の見诵し。(ゴルフ練習場)

■サービス業における経営上の問題点と重点経営施策について

(複数回答)

【経営上の問題点:上位5項目(%)】

0 10 20 30 40 50 売上の停滞・減少 人手不足 同業者間の競争の激化 利幅の縮小 人件費の増加 12.8

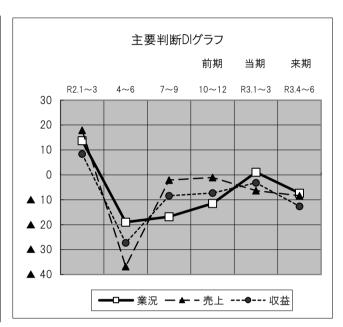


【建設業】~今期は改善、来期は当期に比べ悪化を予測~

建設業の当期の業況判断DIは1.1で、前期から12.6ポイントの改善となりました。請負価格は下 降となり. 売上 高は減少傾向が強まりました。 収益は減少傾向が弱まり、資金繰りも苦しさが和らぎ ました。業況判断DIは前年同期から12.6ポイントの悪化となりました。

来期は請負価格の下降が弱まり、その他は悪化、業況判断DIは当期と比べて8.5ポイント悪化 すると予測されています。

DI項目	前年同期 R2.1 ~R2.3	前期 R2.10 ~R2.12	当期 R3.1 ~R3.3	来期(予測) R3.4 ~R3.6
業況	13.7	▲ 11.5	1.1	▲ 7.4
売上高	17.9	▲ 1.0	▲ 6.3	▲ 8.4
受注残	11.6	▲ 6.3	▲ 8.4	▲ 11.6
施工高	10.5	▲ 1.0	▲ 8.4	▲ 13.7
収益	8.4	▲ 7.3	▲ 3.2	▲ 12.6
請負価格	6.3	▲ 2.1	▲ 9.5	▲ 6.3
材料価格	23.2	10.4	16.8	11.6
在庫	▲ 4.2	▲ 1.0	▲ 1.1	▲ 5.3
資金繰り	▲ 1.1	▲ 1.0	0.0	▲ 8.4
設備状況	▲ 6.3	▲ 3.1	0.0	0.0



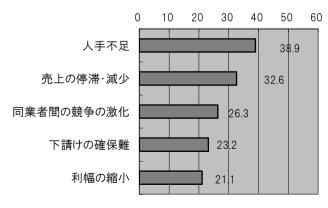
■調査昌コメント

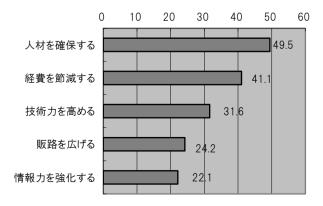
- ・新型コロナの影響により受注減少傾向、それに伴い売上高も減少している。(左官工事)
- ・新型コロナの影響から売上が前年と比較して50%以上減少。厳しい状況が続いている。(管工事業)
- ・受注については公共事業をメインに、一定額を確保している。従業員の定着率は良いが、高齢化が課題となって おり、若手社員を募集している。(総合建設業)
- ・新型コロナの影響により、JR関連の工事受注が減少し売上減少しているも、上場会社からの受注が多く収集 すれば、業況安定すると見ている。(電気工事)
- ・小口受注から大口受注まで幅広く安定しており、今後も堅調な売上推移が見込まれる。(建築業)

|建設業における経営上の問題点と重点経営施策について

(複数回答)

【経営上の問題点:上位5項目(%)】





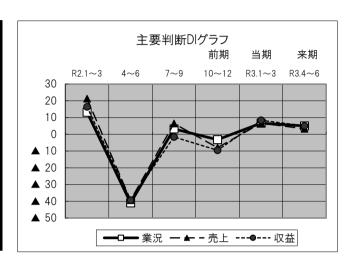
【不動産業】~今期はプラスに転じ、来期は小幅な悪化を予測~

不動産業の当期の業況判断DIは6.7 ポイントで、前期から9.9 ポイント改善しました。仕入価格は増加に転じ、販売価格の減少傾向は弱まりました。

業況判断DIは前年同期から6.4ポイントの悪化となりました。

来期は、在庫の不足状況が強まり、販売価格は当期に比べ下降が弱まると予測されています。 売上高・収益は減少傾向が弱まり、業況判断DIは1.7ポイントマイナスになると予測されていま す。

DI項目	前年同期 R2.1 ~R2.3	前期 R2.10 ~R2.12	当期 R3.1 ~R3.3	来期(予測) R3.4 ~R3.6
業況	13.1	▲ 3.2	6.7	5.0
売上高	21.3	▲ 7.9	6.7	3.3
収益	16.4	▲ 9.5	8.3	5.0
販売価格	▲ 1.6	▲ 4.8	6.7	1.7
仕入価格	6.6	7.9	11.7	6.7
在庫	▲ 11.5	▲ 33.3	1 25.0	▲ 36.7
資金繰り	1.6	6.3	3.3	1.7



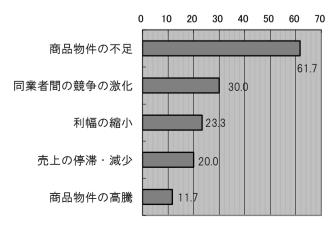
■調査員コメント

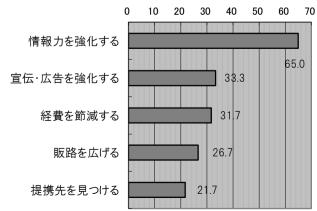
- ・市場に出ている物件が少なく仕入れ出来ていない状況が続いている。地元地主等の連絡網を強化したい。(土地売買業)
- ・商品物件が不足しており、商品仕入に際して新型コロナの影響から期間設定等販売計画策定に苦慮している。(不動産仲買・管理・売買)
- ・新型コロナで都市圏からの移住及び滞在の問い合わせが増加している。売上に直結する情報を早く 獲得出来るかが大事になってきている。(不動産仲買)
- ・新築住宅の購入希望者多く、1月は例年にないペースで多くの物件が売却となった。(建売住宅)

■不動産業における経営上の問題点と重点経営施策について

(複数回答)

【経営上の問題点:上位5項目(%)】



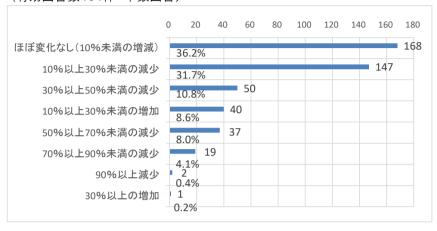


特別調査

~「新型コロナ感染拡大長期化の影響と新常態(ニューノーマル)への対応について」~

1. 今期(1~3月)の売上は、新型コロナの影響がなかった例年1~3月と比較してどの程度変化しましたか。

(有効回答数464件 単数回答)

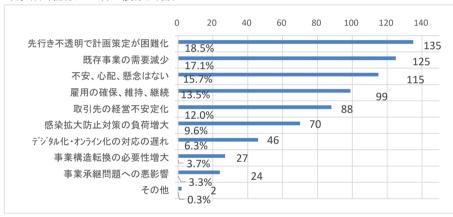


選択件数が最も多い回答は「ほぼ変化なし」で168件(36.2%)となりました。本業の売上減少をインターネット販売によりカバーしているコメントや、固定客が安定しているというコメントが見られました。

一方で、売上が30%以上減少したという 回答数は合計108件で、全体の2割を超え る結果となりました。緊急事態宣言の再発 令・延長により、依然として厳しい経営環境 が続いていることが伺えます。

2.経済社会が新常態(ニューノーマル)へ移行していく中で、事業継続上の不安、心配、懸念はありますか。

(有効回答数731件 複数回答)

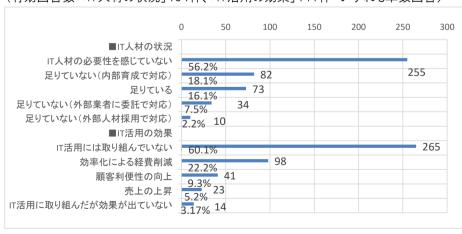


選択件数が最も多い回答は「先行き不透明による計画策定の困難化」で、135件(18.5%)となりました。新型コロナの影響の長期化や、生活様式の変化により、先行きが全く見通せないというコメントも見られました。

次いで「既存事業の需要減少」が17.1%、「不安、心配、懸念はない」が15.7%で、 上位3つはおおむね拮抗した結果となりま した。

3.新常態(ニューノーマル)へ向けて、IT人材の重要性が高まる状況下で、IT人材はどのような状況ですか。 また、IT活用はどのような効果を挙げていますか。

(有効回答数:「IT人材の状況」454件、「IT活用の効果」441件 いずれも単数回答)



「IT人材の状況」については、「必要性を感じていない」という回答が255件で、全体の5割超を占める結果となりました。また、「IT活用の効果」では「活用の取組みをしていない」という回答が265件で、全体の60.1%を占めました。

一方で、すでに取り組んでいる場合の 効果として、「効率化による経費削減」の 回答が98件で、22.2%を占めました。

他の機関における景況調査結果

『法人企業景気予測調査(令和3年1月~3月期調査)』(内閣府、財務省:令和3年3月12日発表)

<大企業で3期ぶりの「下降」超、中堅企業・中小企業はいずれも「下降」超>

令和3年1~3月期の自社の景況感を示す景況判断指数(「上昇」の回答割合から「下降」の回答割合を引いた値)は大企業全産業で▲4.5と前回調査結果の11.6に比べて16.1ポイント悪化した。

中堅企業については \triangle 15.2と前回結果の5.5に比べて20.7ポイント悪化した。 中小企業については \triangle 31.4と前回調査結果の \triangle 15.5から15.9ポイント悪化した。

全企業で悪化している。大企業と中小企業の乖離は前回調査の27.1ポイントから26.9ポイントに縮小し、中堅企業と中小企業の乖離も21ポイントから16.2ポイントに縮小している。

令和3年4月~6月の景況見通しを示す指数を全産業でみると、大企業は2.5(今期比+0.7ポイント)

中堅企業は▲0.7 (今期比+14.5ポイント)、中小企業は▲10.5 (今期比+20.9ポイント)と予測している。

※調査時点を令和3年2月15日、調査対象企業の範囲を資本金、出資金又は基金1千万円以上の法人(電気・ガス・水道業及び金融業、保険業は資本金1億円以上)として実施。大企業:資本金10億円以上、中堅企業:資本金1億円以上10億円未満、中小企業:資本金1千万円以上1億円未満の企業をいう。

『商工会議所(早期景気観測)調査(令和3年2月期発表)』(日本商工会議所:令和3年2月26日公表)

業況DI は、緊急事態宣言の影響続き、一進一退 先行きは、不透明感続くも、持ち直しを見込む ●全産業合計の業況DIは、▲46.8(前月比+2.7ポイント)

●中国向けの生産増が続く自動車関連やデジタル投資の増加を背景に需要が伸びている半導体・電子部品関連の製造業のほか、巣ごもり需要により飲食料品や家具家電の売上が堅調な小売業が全体を押し上げた。一方、10都府県における緊急事態宣言の延長に伴う営業時間の短縮やGoToキャンペーンの一時停止により、客足が落ち込む外食産業や観光産業では苦戦が続く。同業種でも扱う商材などにより好不調が分かれる状況もうかがえるほか、新型コロナウイルス感染対策のコスト増加による収益圧迫などもあり、中小企業の景況感は足元で鈍い動きが続いている。

●先行き見通しDIは、▲39.3 (今月比+7.5ポイント)

●コロナ禍の収束が見通せない中、新たな借入への懸念や、雇用調整助成金の特例措置などの政策効果剥落後の資金繰り悪化、春の観光需要喪失を不安視する声は多く、先行きの不透明感から、中小企業においては慎重な姿勢を崩していない。一方、半導体・電子部品関連の生産増や巣ごもり消費による下支えのほか、新型コロナワクチンによる感染抑制に期待する声も聞かれた。

ちばしんきん経営者会のご案内

もっと経営力を高めたい! 他の経営者と交流を深めたい!

ちばしんきん経営者会は、地元の中小企業経営者あるいはその後継者を会員として、会員相互の情報交換と経営問題について、その時々のニーズに合ったセミナーや講演会等を開催しています。

各種行事を通じて「新しい時代の経営環境に適応できる会員の経営力の向上と、その企業の健全な発展を図る」という基本理念のもと、会員の皆様も積極的に参加していただいています。

会員同士の交流も活発に行われ、そのネットワークも大きく広がっています。令和3年2月末現在、251名の会員様が入会されています。

■経営者の皆様のご入会をお待ちしています!

ちばしんきんコラボ産学官のご案内

開発・改良に向けてのアドバイスを受けたい! マーケティングや販売方法について相談したい!

ちばしんきんコラボ産学官(事務局:千葉信用金庫)では、技術や研究等に関する相談を受付けています。また、大学等研究機関や支援機関のご協力により、県内の各地でセミナーや相談会等を開催しています。

ちばしんきんコラボ産学官は、産学官連携による研究開発を促進し、新商品・新産業の創出により地域経済の活性化を図ることを目的として平成19年3月に設立しました。「技術的な課題を解決したい」、「開発改良に向けてのアドバイスを受けたい」などのご相談に大学等研究機関に直接持ち込み、ニーズとシーズ(技術やノウハウ)のマッチングを図ります。令和3年2月末現在、140社の会員様が入会されています。

- 詳しくはお取引のある千葉信用金庫の職員にお問い合わせください!
- ■千葉信用金庫、中小企業の景気動向調査へのみなさまのご意見、ご要望をお寄せください。



千葉信用金庫 企業サポート部 TEL 043-221-3683 担当:宮下 樋廻